

2024年度活動概要

バイリンガリズム研究会

バイリンガリズム研究は1996年設立以来、CALPやPISA型リテラシーの発達や育成について研究してきた。これまでに、小学校、中学校、高等学校、そして大学レベルでの言語教育はどうあるべきかをバイリンガリズムの視点から検討してきた。2024年度はバイリンガリズムの理論と実践を日本の英語教育へ応用すべく、まずは日本の新課程教科書分析を設計し実行した。

本年度の研究会は2か月に1回のペースでオンラインを中心に行った。小学校英語、高校の教育現場の観点から多面的な意見交換も可能となり、例会では活発な議論が展開された。現在、研究会のプロジェクトとして高校の教科書分析を行っている。

一方、*Rethinking the Education of Multilingual Learners: A Critical Analysis of Theoretical Concepts* Jim Cummins 著の輪読も定期的に行い、教科書分析プロジェクトやそれぞれの教育実践に結び付けたディスカッションが行われている。

本年度は、活動成果を以下のように発表した。

- The 63th JACET International Convention と JAAL in JACET (於) 立命館大学
2024年12月7日(土)

「新課程高校英語教科書を用いて思考力を育む—指導要領に基づく分析フレームワークの提案」(平井、河野、蒲原、金丸)

- JACET 言語教育エキスポ (於) 中央大学 2025年3月2日(日)

「新課程高校英語教科書を用いて思考力を育む—「論理・表現」の教科書分析」
(平井、河野、森景)

研究会のウェブを運営し情報発信している。

<https://www.clas.kitasato-u.ac.jp/faculty/jacet-bilingualism>